

〔第1回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

破骨のエネルギー

運動器疾患研究部
池田 恭治 部長

2015年9月8日(火) 16時30分～
第1研究棟2階大会議室

破骨細胞は、造血細胞から派生・分化した多核の巨大細胞で、造血や骨格の恒常性に必須の生理機能を果たす一方で、さまざまな骨破壊性疾患の原因にもなる。

破骨細胞をターゲットとしたいわゆる骨吸収抑制には、20年の臨床経験をもつP-C-P骨格のビス、エストロゲン受容体を標的とするSERM、分化必須因子であるRANKLに対する中和抗体、カテプシンK阻害薬などの治療薬が開発されてきた歴史がある。

我々は、破骨の分化の過程で見られる代謝適応のメカニズムを追ってきたが、そのなかからも新たな破骨制御法のヒントが見えてくる。

座長：杉本 昌隆